



2023年9月24日
第34号

JR 東労組 Yokohama

JR 東労組横浜地本
発行人 助川一実
編集 情宣担当
ホームページ
<http://www.jreu-yokohama1.jp/>



イーハトーブ

9月25日号

9月4日、最高裁は名護市辺野古への新基地建設を巡り、軟弱地盤の対策に伴う訴訟で県の上告を退ける決定をし、沖縄県の敗訴が確定した。防衛省が当初見積もった総工費3500億円だった。しかし、2022年度末時点で4000億円以上が投入されているが、埋め立ての進捗率は14%に過ぎない。地盤改良工事を開始してから基地として提供されるまで約12年を要し、総費用は約9300億円であることが政府から発表されている。さらに、沖縄県の試算では2.5兆円にもなるとされている。ここに使われていくのは全て私たちから搾り取った税金である。これらの費用があれば、社会福祉や医療費負担減や教育料無償化などに使え、より多くの命が救われるのではないか。

米国内でも完成を疑問視する意見が出ている中、費用が莫大に膨れ上がってでも辺野古新基地建設に拘る必要が本当にあるのだろうか？南西諸島へのミサイル基地配備も進められ、基地があれば標的にされるのは目に見えている。また、沖縄が戦場にされようとしている。戦争できない国から戦争をする国へと徐々につくり変えている。私たちの税金が、命を守るためではなく命を奪う為に使われていくのを許してはいけけない。沖縄だけの問題として捉えず、自分事として捉えていくことが必要ではないか。

私は、あらゆる戦争政策に反対していくためにアクションを起こしていく。(K・O)

イーハトーブとは

「注文の多い料理店」や「雨ニモマケズ」などの著者として有名な宮沢賢治による造語です。故郷の岩手県をモチーフとし、彼の心の中にある理想郷を示す言葉です。

社会に目を向け、新しいものを積極的に取り入れ、農民の生活向上のために最後まで尽力した宮沢賢治の生き方に学びながら、私たちが外に目を向け、私たちが安心して働き暮らせる理想郷を実現していこうという想いを込め、イーハトーブというタイトルで情報発信を行っていきます。